

おそろしい時局と云ふ

冷極三十日といふと三十一日目に

つて食つた 夜に存つてお守おはか入加たす

お花の木小きみは吹か及か出た来た

三十日とこしたからか存と心配し居たうはた

お守おはそれではとるく終つたおははり

学業期限は考う存して付と思つた

時内は了つて変化するは食物は付を付存

り 人の氣持もそうだ

ある時 仲のよい友人と食事の約束をした

大宮駅で彼女の指差した方向より二時内すお

に 自室へ電燈しつみた 主人か出て今

出て行くお守「たよ」 自室は横溝だ そのお守

約束の時刻に来く上るお守は存い 私にっ人

お守をとして二度大宮駅へ行つた

ニコニコしお守「いいところみつかつたよ

お守おとも存か？ た橋に来た友人、一人い食

事すす世たから ~~お守~~ 案内するお守「お守

して「お守すすお守」 来たお守

お守おはお守しお守していつたのには三時内だ

その氣持は → びてしきつた

こ山も又子つた話

竹芝棧橋で二階のりつた 雙折から田んぼへ

て乗ったクワがふしよふしよ 畑のたぬきを

トモが有りぬれた

本能なく竹芝棧橋で山さる船で乗るのだが

二階のりあきには船が去るがびりりこ有りて

手と三階のりは船は乗るん 約束の時刻に来る

いり何船はりりそこ有りたがだ と少あつて

いても不審がらに有りさうになりた

くの奇蹟 時刻にさつて変化する

否 瞬間でも変化する

い人びりり所「不う不うしやが不えさす」と言ふ

小やう者がなくあつた

言葉は知れずして変化する時をのび とらうさ

とて少あつていつて自分も同じさうだ = とて

していつあもしれぬん